

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと (校歌3番の詞から)



現職アメリカ大統領として初めて広島を訪れたオバマ大統領は、「インフレクションポイント」という言葉を使いました。

## 1 学期終業式 校長講話

校長 柳沼 宏寿

早いもので4月7日の始業式以来三ヶ月半が過ぎました。この間、ときわ体育祭や完歩大会そして中体連と大きな行事が続きました。私はこれまで大学の教員あるいは保護者としてそれらの行事を何度か見てきましたが、今回初めて学校の内側から見る経験をしてとても驚きました。まず、皆さんが一つ一つの行事をととても大切に思っていること。そしてその行事を成功させるために早い時期から綿密な計画を立てて取組んでいたことです。昼休みに校舎内を歩いてみたとき、休憩時間にもかかわらずやけに静かだと思いきや幾つかの教室では会議や準備作業、武道場や体育館ではダンスの練習が行われていて、どこも熱気に包まれていました。全生徒が自分の役割を持って臨み、それが結集して大きなものになっていることがよくわかりました。

そして体育祭当日にこんなことがありました。新潟大学の学生が何人か現場研修として来ていたのですが、実は彼らが困った表情をして後ろの方で立ちすくんでいたのです。どうしたのかと声をかけてみると「先生方の指導を観察に来たのにその様子がないのでどうしたらいいかわからない」と言うのです。どうやら彼らにはこの大会が生徒だけで運営されていて先生方は関わっていないように映ったというわけです。そこで私は彼らにこれまでの準備で先生方と生徒の皆さんがどのように関わりながら当日を迎えたかを説明しました。そして「先生方の視線を追いかけてみてください」と助言しました。すると学生たちはハッとした表情で先生方を観察し始めました。そのうち、先生方が皆さんのさまざまな動きをきめ細かく捉えながら適切な支援をしている様子が見えてきたのでし

です。そして学生の目の輝きが変わってきて「生徒同志でどのように協議をしているか近くに行って聞いてきます。」「今、周囲に声をかけているあの生徒にインタビューしてきます」などと動き出しました。ようやく、この行事の深さや意味に気づき、また、見ているだけでは本質をつかめないことにも気づいてきたようです。

ときわ体育祭のような運営は全国的に見ても先進的なものです。以前話したように、これからの世の中はグローバル社会、つまり多様な人々が混在する社会へと向かって行きます。そこで社会的に活躍していくためには他の人と違った自分の役割を果たすことが必要であり、その術を社会に出る前に学んでおくことが重要なのです。この附属中学校の行事運営のすばらしさは、すでにある「文化」をなぞっていきような静態的なものではなくて、先生と生徒が「文化」そのものを協働して創り上げていくダイナミックなものであることです。確かな学びを得ることができる理由がそこにあります。さらに、皆さんはそれを日常的な生徒会の活動や部活動、勉強と並行しながら営んでいる。その努力には心から敬意を表します。

さて、今日で1学期が終了し明日から夏休みに入ります。この夏休み、勉強や部活動に変わらず力を注いでいくことと思いますが、めまぐるしい日常を過ごしている皆さんには、ぜひじっくりと自分のことや家族のこと、そして世の中のことを考える時間を持ってほしいと思います。例えば8月は終戦に関わる記念行事があります。そのような機会に歴史へ思いを馳せてみるのも意義のあることです。

先日オバマ大統領が広島を訪れましたが、その際に彼は日本への原爆投下を「歴史のインフレクションポイントであった」と言いました。インフレクションポイントというのは数学の関数に出てくる概念で日本語では「変曲点」と言います。グラフ上の曲線が方向を変える地点を指します。なぜそのような聞きなれない言葉を使うのだろうか当初は不思議に思っていました。事態の推移を言い表すならば「ターニングポイント」いわゆる「転換点」とか「分岐点」という言葉もありますが、ちょっとニュアンスが違ってきます。いろいろと調べてみてわかってきたのは、変曲点という言葉を使う場合、歩んでいる進路がどのような条件の下にあるかという意味合いが強調されることでした。具体的に言うと、変曲点はそれまで作用を及ぼしていた条件が「+」から「-」に変わるような、全く逆の意味を持って作用し始める地点を意味します。例えば、アメリカは「原爆投下で戦争を早期に終結させた」と考えています。言い換えると、原子爆弾というものを「相手に壊滅的な被害を与えるもの」という意味から、逆に「相手を破滅から救うためのもの」として意味を反転させているのです。この表現はアメリカの大統領が広島を訪れるにあたって周到に練られた策だったと思います。そもそも、戦争に対する考え方を日本人の立場から言うと、戦時中は「自国の繁栄のためにこの戦争は勝たねばならない」「領土拡大は自国のためで侵略ではない」という考え方だったのに対し、原爆を落とされ敗戦に至ると「なんてひどいことをするのだろうか」「戦争は大切な命を奪う悲惨なものだ」という認識へと反転しています。このように、様々な文脈において変曲点があったことがわかります。

そして今、戦後70年が経過しました。戦争当時と比較して私たちの生活はとても豊かになりました。しかし、その反面で環境破壊に伴う地球温暖化、東日本大震災による原発事故、そして世界中で頻発するテロの問題等々、豊かさの反動とも言えるような問題が噴出しています。さらに、憲法改正の論議が巻き起こる中、選挙権が18歳に引き下げられ、皆さんの社会的責任も大きくなってきました。どうでしょうか。今、新たに「歴史のインフレクションポイント」がおとずれているとは言えないでしょうか。もしそうだとすれば、これまでの考え方を反転させ新しい時代を築くのはあなた方です。さあ、皆さんはこれからの未来をどのように形づくってきたいと思いませんか。折しも2年生は先週木山産業の社長さんからお話を聞いたところですが、木山さんは10年後の社会をイメージすることの大切さをお話くださいました。一人一人のイメージーションが新しい時代を創造します。新しい時代のリーダーとなるべき皆さん。この夏休み、ぜひ有意義な時間を過ごしてください。